

福山大学薬学部の研究チームによる学会発表がマスメディアで紹介されました

日本薬学会第139年会(日時:2019年3月20日~23日、場所:千葉幕張メッセ)において、「地域薬局における潜在的口コモリスク者の握力測定によるスクリーニング方法に関する検討」と題した研究成果を発表しました。この研究成果が、「薬事日社」の新聞記事として紹介されました。薬事日報社から掲載許可を得ましたので、新聞記事を下記に掲載しました。

要介護となる要因の一つとして、骨粗鬆症やサルコペニア（筋肉量の低下）などによる運動器症候群、いわゆるロコモティブシンドローム（ロコモ）が挙げられます。地域薬局がロコモリスク者の早期発見をおこない、運動習慣や食生活改善等のアドバイスによりロコモ予防を行なうことは、要介護となるリスクを減少させる上において大きな意義があります。

今回、研究発表をおこなった広島びんごフィジカルアセスメント研究会は、福山大学薬学部の教員と地域の薬剤師の有志により 8 年前に結成され、これまで健康に係る地域貢献活動やそれに関連した研究活動に取組んできました。今回の研究成果は、毎年宮地茂記念館で行っている健康サポートフェアで収集したデータを解析したものです。研究会のメンバーで中国中央病院の薬剤師として働いている卒業生が研究会を代表して発表を担当しました。



宮地茂記念館で開催している健康サポートフェアの様子

薬学部 教授 杉原成美